

市民意向調査(概要)

■調査概要

調査目的	「三木市立地適正化計画」策定の参考に日常生活で感じる思いやお住まいの地域を取り巻く環境の実態について、率直なご意見をお伺いするため
調査対象	三木市の東播都市計画区域内にお住まいの18歳以上の方から、無作為に抽出した3,000名
調査方法	郵送法(郵送による調査票の配布・回収)とWeb回答の併用
配布期間	郵送日:令和5年8月1日 締切日:令和5年8月22日
回収率	34.9%(1,046票回収/3,000票配布)

■調査結果概要

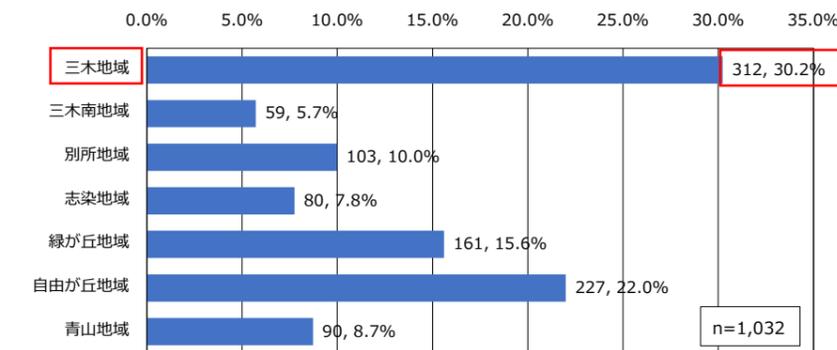
●年齢(属性把握)

「70~79歳」が最も多く25.1%、次いで「60~69歳」が19.2%



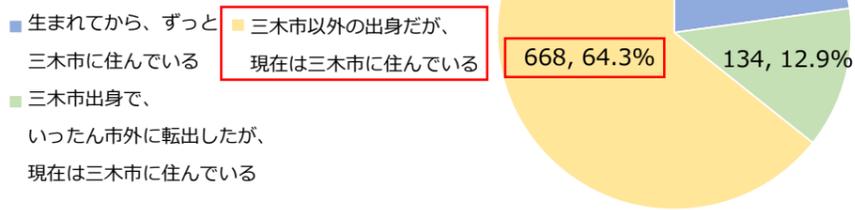
●居住地(属性把握)

「三木地域」が最も多く28.6%、次いで「自由が丘地域」が22.0%



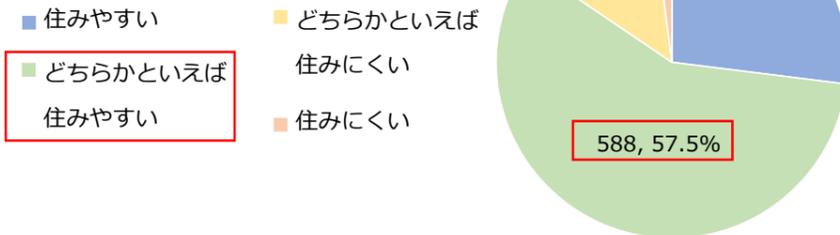
●居住歴(市の強み確認(方針等への検討材料))

「三木市以外の出身だが、現在は三木市に住んでいる」が最も多く64.3%、次いで「生まれてからずっと三木市に住んでいる」が22.8%



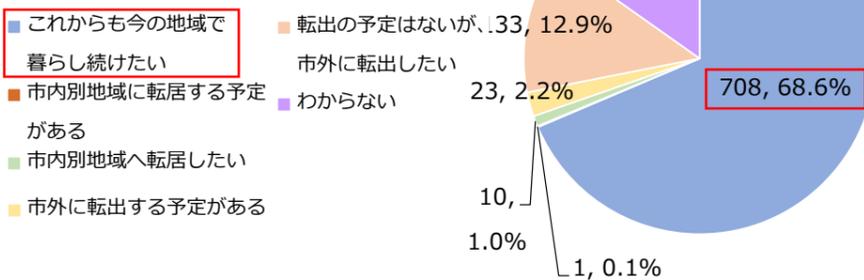
●市の住みやすさ(住み心地確認(課題・方針等への検討材料、評価指標の候補))

「どちらかといえば住みやすい」が最も多く57.5%、次いで「住みやすい」が27.0%



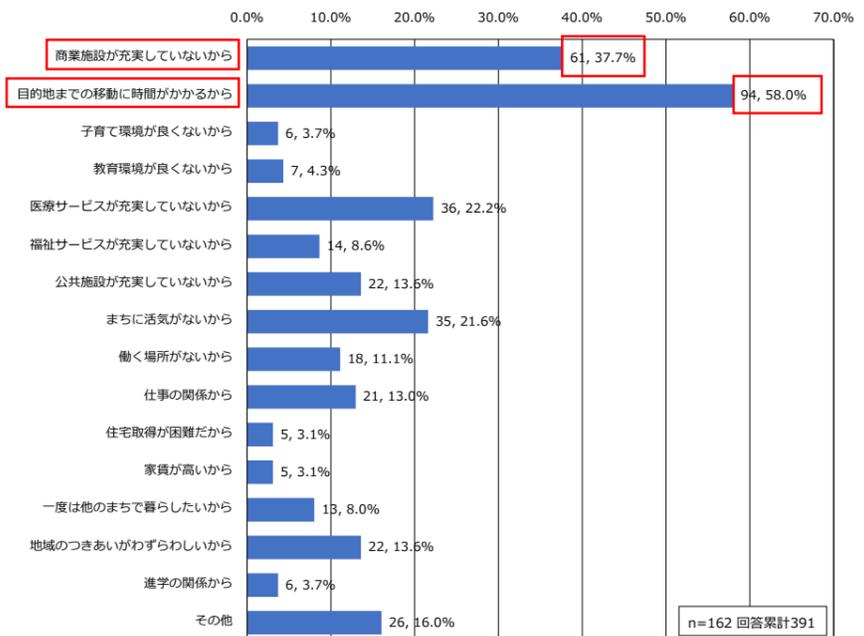
●三木市に暮らし続けたいか(市または居住地域の弱み確認(課題・方針等への検討材料))

「これからも今の地域で暮らし続けたい」が最も多く68.6%、次いで「わからない」が15.2%



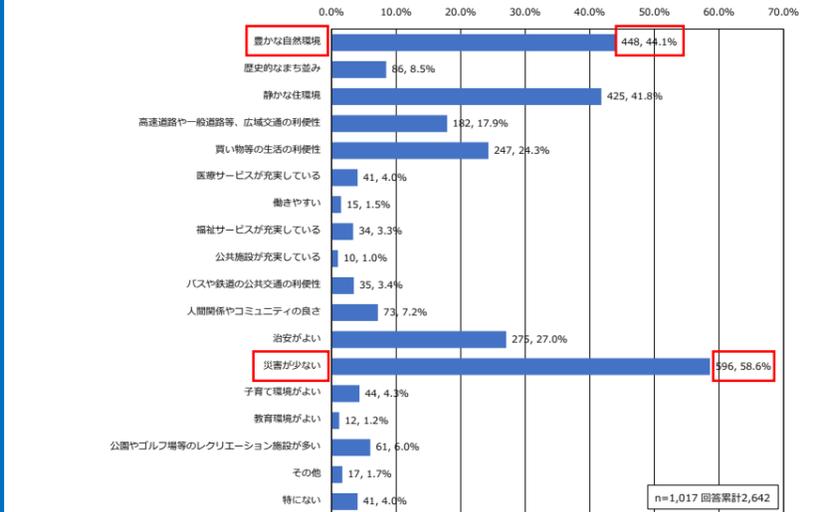
●転居・転出理由(市または居住地域の弱み確認(課題・方針等への検討材料))

「目的地まで時間がかかるから」が最も多く58.0%、次いで「商業施設が充実していないから」が37.7%



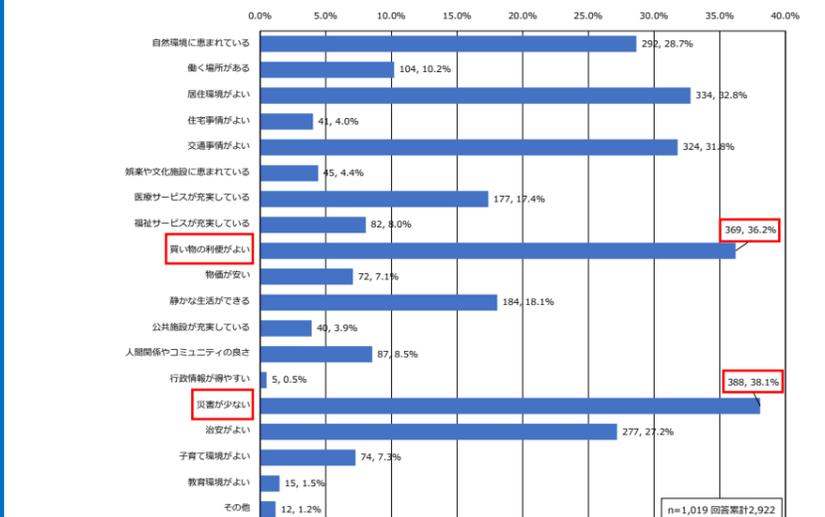
●三木市の魅力(市の魅力確認(方針等への反映、評価指標の候補))

「災害が少ない」が最も多く58.6%、次いで「豊かな自然環境」が44.1%



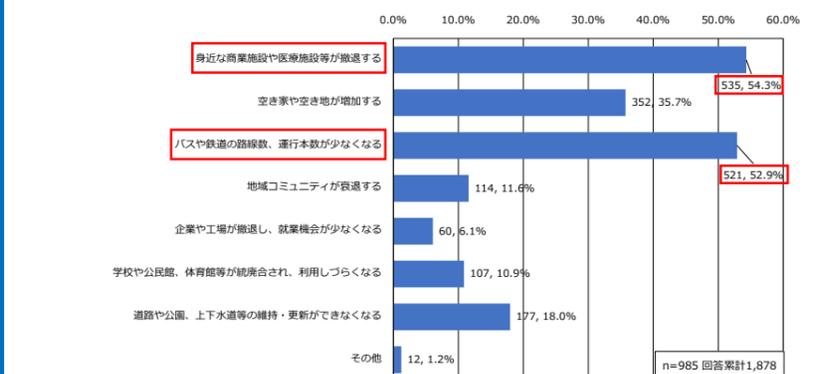
●住みよさとは(市全体の理想像確認(方針等への反映))

「災害が少ない」が最も多く38.1%、次いで「買い物の利便が良い」が36.2%



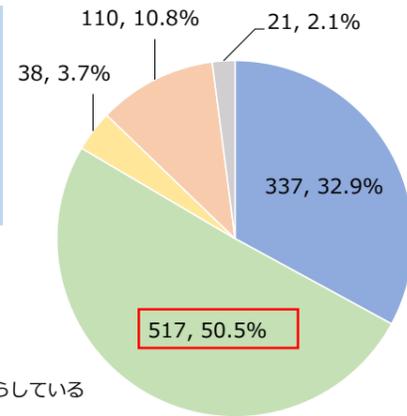
●人口減少や高齢化の進行により生じる問題への不安(人口減少等の影響の市民理解度の確認(課題・方針等への検討材料))

「身近な商業施設や医療施設等が撤退する」が最も多く54.3%、次いで「バスや鉄道の路線数、運行本数が少なくなる」が52.9%



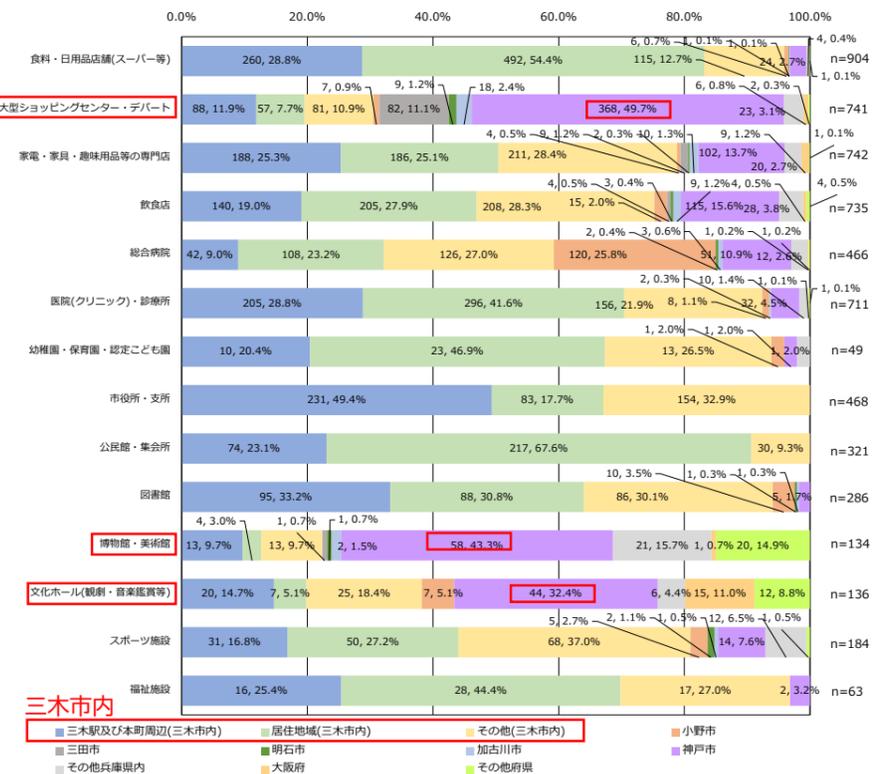
●将来住みたい場所(居住環境の理想像確認(方針等への検討材料))

「中心拠点へ徒歩や自転車、公共交通により容易にアクセスできる地域」が最も多く50.5%、次いで「医療・福祉・商業施設等の便利な施設が集約した駅周辺(中心拠点)」が32.9%



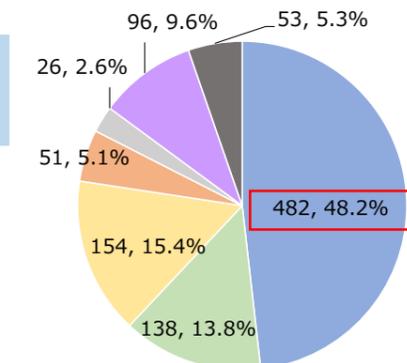
●日常生活の中で利用する施設の場所(施設利用確認(誘導施設の検討材料))

概ねすべての施設の利用場所が三木市内「大型ショッピングモール・デパート」、「博物館・美術館」、「文化ホール(観劇・音楽鑑賞)」については神戸市での利用が最も多い



●三木市の中心的な場所(市の中心確認(課題・方針等への検討材料、誘導区域・誘導施設の検討材料))

「イオン三木店周辺」が最も多く48.2%、次いで「志染駅周辺」が15.4%



●各拠点及び自宅周辺に充実させたい施設(各拠点の将来施設充足度確認(誘導区域・誘導施設の検討材料))

場所	1位	2位	3位
イオン三木店周辺	大型ショッピングセンター・デパート	娯楽施設(映画館等)	飲食店
三木駅及び本町周辺	飲食店	食料品・日用品店舗(スーパー等)	大型ショッピングセンター・デパート
志染駅周辺	飲食店	食料品・日用品店舗(スーパー等)	大型ショッピングセンター・デパート
緑が丘駅周辺	飲食店	食料品・日用品店舗(スーパー等)	駐車場
恵比須駅周辺	飲食店	食料品・日用品店舗(スーパー等)	大型ショッピングセンター・デパート
市役所周辺	飲食店	総合病院	娯楽施設(映画館等)
ご自宅周辺	食料品・日用品店舗(スーパー等)	飲食店	医院(クリニック)・診療所

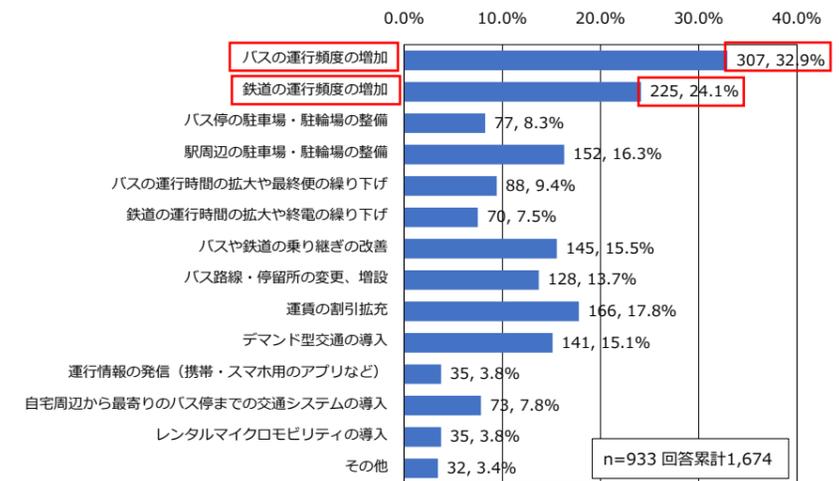
●公共交通の満足度(公共交通満足度確認(課題・方針等への検討材料、評価指標の候補))

「どちらかといえば不満」が最も多く32.9%、次いで「どちらともいえない」が27.4%



●公共交通改善に求めること(公共交通の理想像確認(課題・方針等への検討材料))

「バスの運行頻度の増加」が最も多く32.9%、次いで「鉄道の運行頻度の増加」が24.1%



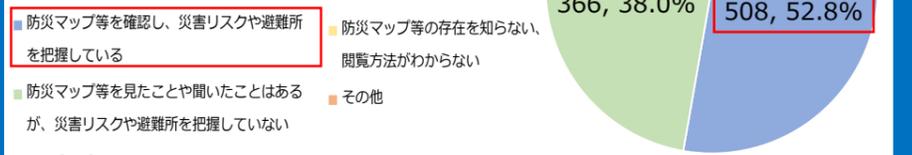
●防災に関する市の取り組みの満足度(防災に関する市の取組の満足度確認(課題・方針等への検討材料、評価指標の候補))

「どちらともいえない」が最も多く49.8%、次いで「どちらかといえば満足」が31.2%



●自宅周辺の災害リスク・避難所等の把握状況(防災に関する市の取組の波及状況確認(課題・方針等への検討材料、評価指標の候補))

「防災マップ等を確認し、災害リスクや避難所を理解している」が最も多く52.8%、次いで「防災マップ等を見たことや聞いたことはあるが、災害リスクや避難所を把握していない」が38.0%



●考察

以下、アンケート結果を踏まえて整理した三木市立地適正化計画における考察を4つの視点(都市機能、居住、交通、防災)から以下に示す。

1.都市機能

転出・転居する(したい)理由として、「商業施設が充実していないから」が全体の2番目に多く、「大型ショッピングモール・デパート」等については神戸市での利用が最も多い状況や三木市の魅力の中で、「医療及び福祉サービスが充実している」等の都市機能施設の集積について低い回答率であり、活力と魅力あふれた拠点の形成が重要である。

2.居住

各拠点には、主に「飲食店」「食料品・日用品店舗(スーパー等)」等の日常サービス機能の充実が求められる中で、人口減少及び高齢化により「身近な商業施設や医療施設等が撤退する」と懸念されているため、身近な生活圏における居住環境の質の維持及び向上が必要である。

3.交通

人口減少及び高齢化により「バスや鉄道の路線数、運行本数が少なくなる」懸念や、将来は「中心拠点へ徒歩や自転車、公共交通により容易にアクセスできる地域」に居住したいという回答の多さから、生活拠点と公共交通ネットワークの連携が重要である。

4.防災

三木市は「災害が少ない」との回答が多いことも要因の一つとして考えられるが、防災に関する取り組みは、十分な周知を得られておらず、災害リスク等を把握していない住民も一定程度いる状況の中で、近年の局地的な豪雨等、不測の事態が発生した場合に混乱が生じる可能性があることから頻発化・激甚化する自然災害への対応策の周知に力を入れる必要がある。